

生徒及び保護者の皆様へ

札幌日本大学中学校・高等学校

校長 浅利 剛之

札幌日本大学中学校及び高等学校の生徒の皆さん、校長の浅利剛之です。3月の休校に続き、4月14日から始まった休校はさらに5月末まで延長になりました。毎日どのように過ごしていますか。一年生は入学式が終わり、二、三年生は始業式が終わり、一通りの準備が整い、さあこれからというときに国の緊急事態宣言を受け休校期間に入りました。家に留まる時間が長くストレスを感じていると思います。学習の遅れも気になりますし、やりたいことができない焦りもあると思います。遠足の中止など行事にも影響が出ています。さらに先日中体連の大会、高体連インターハイとその予選、そして昨日は秋の全日本吹奏楽コンクールが中止になったという衝撃的なニュースがありました。多くの生徒がこれらの大会を目指し努力してきたことを思うと言葉がありません。特に三年生にとっては、大きな目標が突然なくなってその落胆は「残念」とか「苦渋の決断」という言葉では納得できるものではないと思います。本校は文武両道を大きく掲げておりその教育効果の大きさを知っていますので、私はぎりぎりまで開催を模索し、たとえ無観客でも縮小でも実施すべきだという考えでしたが早い段階で厳しい判断がなされたことは本当に残念に思います。感染拡大が早く収束することを願い、生徒の皆さんにはなんとか自分の次の目標をみつけて、決してあきらめることなく、自分を信じて努力を積み重ねてほしいです。

緊急事態宣言の下、社会活動の自粛により様々なことが変化していますが、学校も長びく休校によってあらためて気がつくことがあります。現在先生方はオンライン授業の準備を進めておりますが、ICTを駆使した新しい授業スタイルの確立や授業自体の組み立ての新しい発見など、必ずしもマイナスばかりではありません。しかしやはり生徒がいない学校はさみしい。そして一緒に集まって勉強したり、部活動、行事、様々な活動をするに学校は大きな意味、意義があるとあらためて感じます。ICTやAIなどの発達によって様々なことが合理化されていく風潮がありますが、人間はやはり生き物であるということを忘れてはいけません。食べたり寝たりということを省略できません。また感情ももっています。泣いたり笑ったり喜んだり怒ったりすることも相手がいないとできません。正にその人間を育てる場が、人が集う学校なのであると、今の状況になってあらためて学校の重要性を強く感じます。ですから人間の本質を考えると、感染が終息したときは、人間の社会は今言われている新しい生活様式を取り入れつつも、基本的に元に戻り日本の国際化もやはり進んでいくと考えています。人生をうまく乗り切るための必要な資質はたくさんありますが、一番必要なのは「先見力」だと言われています。生徒の皆さんは先を予想して、今できる努力を続けてほしいと思います。

さて休校が続く学習のことも不安になっていると思いますので、学習法についても少しお話しします。学習は毎日必ずやることで効果が出る科目と集中的に学習することで

効果が出る科目があります。英語長文読解、英語リスニング、数学の問題演習、国語長文読解の四つは私が勝手に呼んでいる「四つのルーティン」です。少しでいいので毎日触れることで、地力がついていきます。これだけは最低毎日やる意識をもつと自然と成績が上がってきます。また理社は固め打ち（集中学習）が有効です。今は長期の休みですから、四つのルーティン以外は二週間ずっと化学をやるなど特定の科目に絞って学習すると短期間で効果が上がります。また理数科目は先取り学習が極めて効果的です。自分でどんどん先に進めておくと、授業は復習になりますので理解度が格段にアップします。さらにこの機会に本をたくさん読んだり、合間に軽い運動を取り入れることも有効です。長い休校期間を利用してねらいを定めて効率的に学習してほしいと思います。

さて今後の予定についてお話しをします。先月末は全先生が制作したメッセージ動画、授業動画をHPに掲載しました。ご覧になっていただけましたか。そしてご存知の通り、今週火曜、水曜とオンライン授業の各科目ガイダンスを実施した後、14日（木）からいよいよオンライン授業が本格的にスタートします。一日4時間授業から段階的に始めますが、最終的には一日6時間授業にしていきます。勉強だけではつまらないのでビブリオバトルなどのオンラインでのイベントも企画しています。ちまたではオンライン授業の話題がよく取り上げられますが、実際はハードルが高くなかなかすぐには実現できません。そんな中本校は全先生が急ピッチで猛特訓してくれたおかげで全校的に実施できるところまでこぎつけました。操作の不慣れな面もありますが、徐々にスキルを上げて改善をはかっていきますので多少のトラブルはあらかじめご容赦願いたいと思います。

学校が、皆さんに対し美辞麗句を並べて励まし、頑張れと言うことは簡単です。しかしそれだけでは無責任だと思えます。生徒の皆さんに頑張れと言っている以上、我々も頑張らないと皆さんを指導する資格がないとさえ思えます。先生達もそう思って今必死に挑戦して頑張っています。危機になったときこそ真価が問われる、そしてどんなときでも何とかする、ただでは転ばない、これこそが札幌日大のDNAです。コロナに負けずに、意地をみせてみんなと一緒に困難を乗り越えよう。

最後に保護者へお話をします。現状思ったような教育活動ができずに大変心苦しく思っています。選んで入学してくてくれた生徒のためにも可能な限りのことはしたいと準備を進めています。保護者の皆様には、生徒が家庭での生活リズムを守り、ストレスをためないような工夫をするご協力をお願いします。学校も各先生から定期的な声掛け、アドバイスを本人にしていきます。保護者の皆様も大変な状況であることと思いますが、お互い頑張っこの困難を乗り越えていきましょう。